



三の丸

三の丸は、松井家の年貢米を収める蔵である「永御蔵」や松井家の家老である井上家や角田家の屋敷があった場所です。

ながおくら

「永御蔵」

かろう

や松井家の家老である

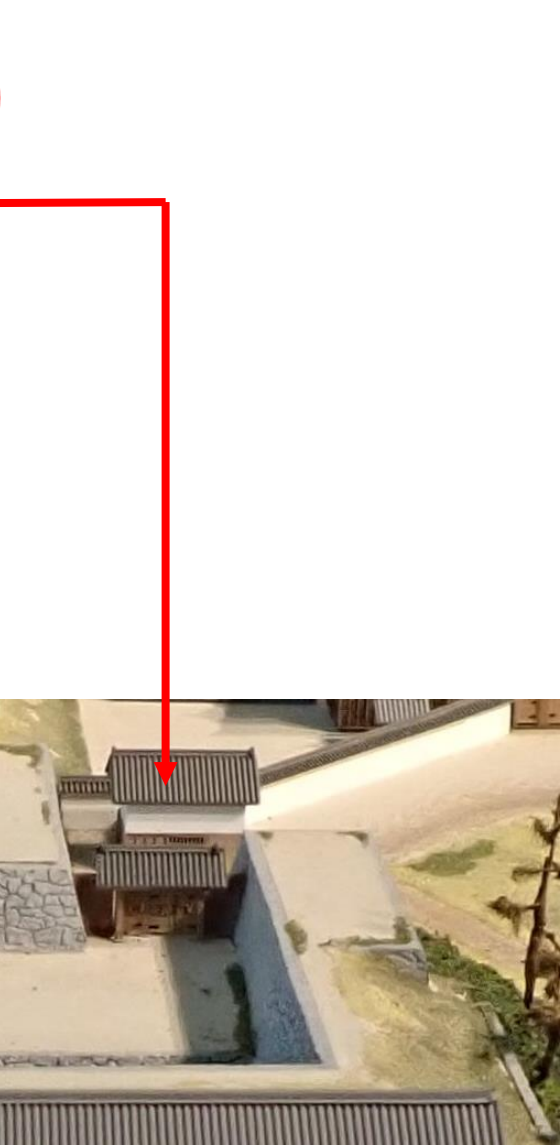
井上家や角田家の屋敷があった場所です。



ながおくら 永御蔵

三の丸にあった米を収めるための蔵。薬医門様式やくいもんようしきの門（永御蔵御門ながおくらごもん）とその左側に番所ばんしょを設けていました。現在、この永御蔵御門と番所が春光寺しゅんこうじ（古麓町971）の境内に移築されています。現地には井戸跡の看板があり、当時の場所を示しています。

三の丸に永御蔵が創設されたのは八代城主松井直之まついなおゆきのころ、貞享4年じょうぎょう（1687）のことです。「さんぼんまつもん 三本松門」という門が近くにあったことから「さんぼんまつ くら 三本松の蔵」などとも呼ばれていました。



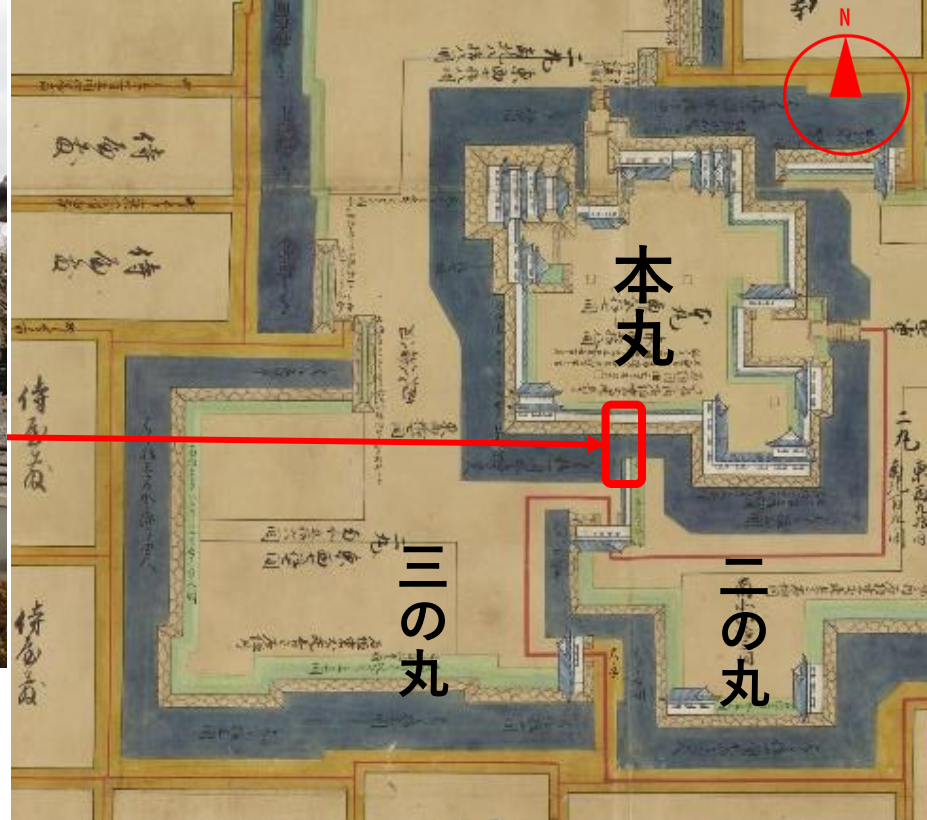
さんぼんまつもん

三本松門

現在の厚生会館と代陽幼稚園の間のあたりにあった門です。三本の松が植えられていたことから「三本松門」と呼ばれていました。



現在の八代宮入口



「肥後国八代城廻絵図」
(国立公文書館所蔵／部分・一部加筆)

明治13年に 新たに架けられた橋

現在、本丸南側の三の丸から本丸にある^{やつしろぐう}八代宮へ入るための橋が架けられています。

この橋は江戸時代にはなく、明治13年（1880）に八代宮が^{ごだいごてんのう}後醍醐天皇の皇子^{かねなが}懐良親王

^{けんしょう}顕彰のために創建された際に新たに架けられたものです。江戸時代の絵図を見ると、

この橋の部分は石垣で閉じられています。